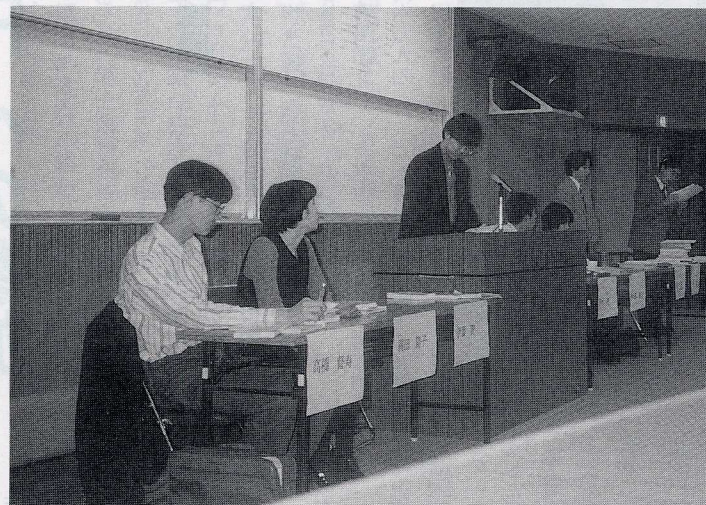


大学祭

法学部シンポジウムから



質問に必死で答える報告者

シンポジウムプログラム

1. 住宅法制・住宅環境の概観
—東広島市を中心に—
高橋 督寿
2. 住宅をめぐる管理問題
—ペット・管理組合等—
前田 陽子
3. 学生用住宅の問題点
伊藤 賢
4. 相隣関係その他について
別所 亮
5. 東広島市の環境問題
西小部夏子

敷金の管理について

今回のシンポジウムには、大家さんとアパートの借り手である学生の双方に参加して頂いたために、興味の中心が学生用アパートの問題点にあり、その中でも双方の利害の対立がはっきりとする家賃や敷金、礼金については、さまざまな質問が寄せられました。特に敷金については、最近新聞紙上ににぎわせた住専処理に伴う賃貸人からの解除の問題も含め、敷金が誰のものなのかはつきりしないという現状を挙げ、大家と学生の双方が意識的に敷金を誠実に管理すべきだという提言と、ドイツ民法を例にしたひとつの方法(敷金固有の銀行通帳の作成を、具体的に述べる事ができたのはとても有意義であったと思います。

環境問題について

また、東広島市にはゴルフ場が多いため環境問題についての討論も行われ、ゴルフ場から出る農薬がどれほど環境に影響を与えているのかという質問や、工学部や大学関係者の生活排水等西条下見地区の環境に悪影響を及ぼしているのでは、という耳の痛い質問もありました。西条の環境については、大学移転によって急激に変化したことを考えると、これからも取り組む必要性の高い問題であると思われます。

シンポジウムを終えて

シンポジウムを進行していくにあたって感じたのは、大家さんと学生の考え方や、いろんな意味での判断基準があまりにも異なっているということ、大家さんは、学生がどのようなニーズを持っているのかを知りたがっているということでした。またシンポジウムが終了したときに、大家さんから「このような催しは、大学がある地域ならではの催しは嬉しい。できればこのように催しは続けていただきたい」とのご意見をいただきました。

ところで東広島市民の中には、大学移転に伴って受ける益よりも害のほうが大きい、と感じられている方もいると聞きます。その理由は、学生のモラルの低さにもありますが、市民の方々と大学側の接点が少なすぎることにもあるのではないかと思います。

今回のシンポジウムは、市民と大学の接点を作るきっかけとなったはずですし、このような試みは毎年続けられればもっとよいものになるのではないのでしょうか。

広島大学はこれからも東広島市にその活動の拠点を置くわけですが、広島大学が東広島市に移転してきてよかったと感じてもらうためにも、今回のような機会をもっと増やし、東広島市を賀茂学園都市として発展させることに寄与するの、大学のひとつのあり方であるはずで、このような企画がまた来年も行われることを強く望みます。

法学部でシンポジウム

今年の広島大学大学祭の初日の十一月二日(土)、法学部において「西条地区における住宅・環境問題」をテーマにしたシンポジウムが開かれました。

この試みは昨年の模擬裁判と同様に、学生が主体となって行ったものであり、大学関係者だけでなく市民の方にも参加していただけたことにその意義があったと思われます。

特に今回は、テーマが地域に密着したものであったため、西条地区の学生アパートの経営者の方や、東広島市役所の職員の方におこしいただき、とても有意義なものとなりました。

シンポジウムの内容

シンポジウムは、学生の研究成果の発表とそれに基づいた討論の二部構成となっており、学生の発表においては、

文・伊藤 賢
写真 (Ito, Satoshi)
法学部三年生

住宅・環境問題について東広島市の都市計画という広い視野でとらえたものもあれば、もっと具体的に住宅をめぐる管理問題をテーマにしたものなど、さまざまなものがありました。特に西条地区において、広島大学の移転に伴う住宅環境の急激な変化を考慮してアンケートを行い、それに基づいて、西条地区の住宅問題の実際を知ることができたということは、それだけで意味のあることだったと思います。

さきほども触れましたように、広島大学の統合移転は平成七年三月に完了し、その結果、これまで静かな田園であった西条には、多くのアパート・マンションが建設され多くの人が住むようになり、そのためさまざまな問題が発生することになりました。

それだけでなく現在建築済みのアパート・マンションは、そのほとんどが農地を転用した土地のうえに建てられたものであり、大家さんは農家の方がほとんどで、まだアパート経営に慣れていないこと、世代の異なる学生、すなわち若者が一時期に大量に移り住んできたことによる風俗環境の変化など、西条は特殊な環境にあるといえるのです。

そこでシンポジウムにおける討論の部では、参加者の方からさまざまな種類の質問がなされました。その例をいくつか挙げてみたいと思います。

- 広大生協ベストセラー・トップ・テン
- ① 「EQ」〜こころの知能指数
D・ゴールマン 講談社
 - ② 神神の指紋(上)
グラハム・ハンコック 翔泳社
 - ③ 岩波講座 現代数学の基礎1
青木和彦 岩波書店
 - ④ 神神の指紋(下)
グラハム・ハンコック 翔泳社
 - ⑤ 猿石日記 極限のアジア編art1
猿石 日本テレビ放送
 - ⑥ 現代社会の理論 見田宗介 岩波新書
 - ⑦ バルト 現代思想の冒険者たち 21
鈴木和成 講談社
 - ⑧ マルチカルチュラルイズム
チャールズ・テーラ 岩波書店
 - ⑨ 脳内革命? 春山茂雄 サンマーク出版
 - ⑩ 法律学がわかる アエラムック
朝日新聞社

- 広報委員会では、本誌の基本的な編集方針と投稿規定を次のとおり定めております。
- 本誌に関するご意見、ご要望などをお寄せください。原稿をお待ちしております。
- ★編集基本方針
- 一、本誌の責任機関の意志あるいは決定された内容の伝達と周知
 - 二、本誌の状況についての報道と資料の提供
 - 三、本誌にかかわる意見の交流
- ★投稿規定
- 一、文字数は二千以内とします(図、写真は、一枚を二百字と換算。原稿は、原則としてMS-DOSのテキストファイルのプロッピーディスクに記入し、ハードコピーと図表を別途添付してください)
 - 二、本文には、四百字程度で小見出しをつけてください
 - 三、原稿は原則として掲載します。ただし、特定の個人及び団体を誹謗中傷する原稿または本誌の目的や性格に照らして不適当と思われる原稿は、掲載しません
 - 四、採否は広報委員会で決定します
 - 五、提出された原稿は、掲載の有無にかかわらず、返却いたしません
- ★次号は二月六日に発行予定です



夏季休業の変更について

平成九年度から

七月十一日〜八月三十一日が

八月一日〜九月二十日に

変更になります。